

基本情報

- ◆ 認定年度: 2019(令和元)年
- ◆ 設置時期: 2019(令和元)年10月
- ◆ 実施部局: 高等研究院物質一細胞統合システム拠点(iCeMS)
- ◆ 相手方機関: カリフォルニア大学ロサンゼルス校(アメリカ)
- ◆ 設置タイプ: インバウンド型
- ◆ 設置目的: 量子ナノ医療研究を推進し、がん治療への実用化を目指す。新学問領域の展開や、UCLA及び現地産業界との連携強化を図る。
- ◆ 設置場所: 京都大学(日本・京都)
- ◆ 活動内容: UCLAとの学術交流、研究者の交換、学生の交流の推進。シンポジウムやセミナーシリーズの開催。

活動による大学全体への波及効果

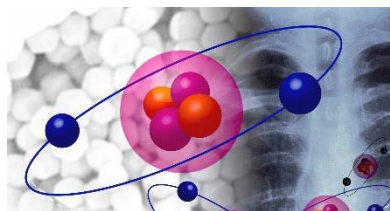
- 新規学術分野の確立
 - 放射線医療への波及
 - 複合原子力科学研究所、SPRING-8との連携
 - カリフォルニアの研究拠点との連携
 - カリフォルニア、日本の産業への波及
- 量子ナノ医療研究の進展により新規放射線治療の開発など、京大内の研究に影響を与えている。また、当センターは大学内の学問領域の垣根を超えた異分野融合を促進している。
- センターの活動を通して学内の研究者と米国のトップレベル研究者との交流が可能となる場を提供している。

活動概要

京都大学、高等研究院 物質
一細胞統合システム 拠点



ナノ材料



量子ナノ医療研究

Dept. of MIMG/UCLA



連携: 複合原子力科学研究所、SPRING-8

2024年度の主な活動実績

UCLAー京都大学の学術交流、Newsletter “KAWARABAN” 発行

- 5月22～24日、東北大学でナノ学会第22回大会が開催。「ナノメディシンとがん治療」という題で基調講演を行い、ナノメディシンがどのように癌の放射線治療の変革を引き起こしているかを議論した。
- 7月26・27日、大阪医科薬科大学で第20回日本中性子捕捉療法学会学術大会が開かれ、「ホウ素担持新規ジペプチドによる腫瘍の消滅」という題で、最近のBNCTに関する新知見を報告した。
- 8月21～23日、国立がん研究センターで日本患者由来がんモデル学会・日本ヒト細胞学会合同学術集会2024が開催。「CAMモデルの現状と将来」というテーマでセッションを企画した。
- 11月12日～14日にパレスホテル東京で開催された、公益財団法人高松宮妃癌研究基金・第52回国際シンポジウムにおいて、「ホウ素中性子捕捉療法 (BNCT) : SLCファミリー膜輸送体とホウ素化薬物の取り込み」という題で講演を行った。

